

第145回 全国大学国語教育学会（信州大会） プログラム

発表資料の準備や配布の方法など、一次案内からの変更がいくつかありますので、必ず「参加にあたっての留意点（重要）」をお読みください。

1. 日時 2023年11月4日（土）～11月5日（日）（公開講座は10月21日（土）に開催）

2. 会場 信州大学教育学部キャンパス（〒380-8544 長野市西長野6-口）

※信州大学の本キャンパスは松本市ですが、本大会の会場となる教育学部キャンパスは長野市です。

※大会期間中はキャンパスの駐車場を開放いたしますので、自家用車などのご参加も可能ですが、50台分程度のスペースしかございませんので、原則的には公共交通機関でお越しいただくことをおすすめします。

3. 共催 国立大学法人信州大学

4. 参加費

事前申し込み（9月25日まで受付）		直前申込（会期前再オープン）	
会員	5,000円	会員	6,000円
学生会員	3,000円	学生会員	5,000円
非会員	6,000円	非会員	6,000円
学生非会員	7,000円	学生非会員	5,000円

※当日、現金でのお支払いはできません。

※領収書については、「発表・参加申込システム」の「領収書自動発行」から発行することができます（[ここからリンク先に移動できます](#)）。

※参加申込の詳細は、[一次案内をご覧ください（ここからリンク先に移動できます）](#)。

※「公開講座（オンライン／10月21日開催）」のみの参加は無料となります。

5. 日程

第1日 11月4日（土）

8:45	受付
9:30	自由研究発表
12:20	昼食
12:55	理事会
14:00	総会
15:10	シンポジウム
17:40	
18:30	
20:30	懇親会

第2日 11月5日（日）

9:00	受付
9:30	課題研究発表
12:00	昼食
12:30	若手研究交流企画
13:40	自由研究発表
16:30	

公開講座は10月21日（土）15:00～18:00にオンラインで実施します。

[事前申込はこちらから](#)

大会公報サイト：<https://sites.google.com/view/jtsi2023shinshu>

6. プログラム

【第1日 11月4日（土）】

◎自由研究発表 9:30～12:20 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

第1会場 司会：羽田潤（兵庫教育大学）・渡部洋一郎（上越教育大学）

会場：北校舎講義棟N101教室

- | | | |
|-------|--|----------------------------------|
| 1-1-1 | A I生成テキストの検討による学習指導要領「書くこと」領域改善の可能性一文種ごとの構成プロンプトの具体化と A I生成テキストの点検・修正を通してー | 柳谷 直明（芦別市立啓成中学校） |
| 1-1-2 | 対話型文章生成AI（Chat GPT）を活用した仮想ディベートー高等学校におけるインクルーシブな国語科授業の提案ー | 鶴谷 拓真（兵庫教育大学大学院・院生 和歌山県立貴志川高等学校） |
| 1-1-3 | ChatGPT-4で動く作文添削学習ゲーム開発の研究ー生成AIを相手に安全に作文指導のトレーニングをするー | 池田 修（京都橘大学） |
| 1-1-4 | 中学校国語科における生成AIを活用した授業の開発ー学習者とAIの判断の差異に着目した理解と表現の学習指導を通してー | 渡邊 光輝（お茶の水女子大学附属中学校） |
| 1-1-5 | 高校国語科における生成AIに関する授業の開発ーデジタル・シティズンシップの視座からの指導の検討ー | 笠原 諭（西武学園文理高等学校） |

第2会場 司会：山元隆春（広島大学）・余郷裕次（鳴門教育大学大学院）

会場：北校舎講義棟N102教室

- | | | |
|-------|--|-----------------------|
| 1-2-1 | 文学の授業において学習者の自己の問いが深化していく様相 | 鈴木 真樹（相模原市立九沢小学校） |
| 1-2-2 | さまざまな視点で物語を読み、重ね読み効果を感じる子どもの育成ー四つの物語から『ヒロシマのうた』を読み解くー | 吉牟田 幸子（刈谷市立朝日小学校） |
| 1-2-3 | 自己の読みへ向かう交流の考案ー説明行為に対する検討を起点としてー | 西田 太郎（兵庫教育大学） |
| 1-2-4 | 読みの交流における一人称の語りの問いー語り概念の獲得を促すプレ調査からー | 大城 里緒（上越教育大学教職大学院・院生） |
| 1-2-5 | 読むことの学習評価につながる理解方略指導論の検討（2）ーBeers & Probst(2020)Forged by Readingを中心にー | 山元 隆春（広島大学） |

第3会場 司会：幸田国広（早稲田大学）・上谷順三郎（鹿児島大学）

会場：北校舎講義棟N103教室

- | | | |
|-------|----------------------------|--------------------|
| 1-3-1 | 「語り手の作為」に着目した文学の学習デザインの一考察 | 橋本 祐樹（世田谷区立等々力小学校） |
|-------|----------------------------|--------------------|

- 1-3-2 物語の読解指導における「参加」とは何か 岩崎 直哉(富山国際大学)
河崎 美香(富山国際大学)
- 1-3-3 物語行為を促進する読みの学習指導の研究－【作家になる体験】を通じて－ 澤田 裕典(大阪教育大学・院生)
- 1-3-4 学習者の文学的イメージ体験－授業後に学習者が自発的に創作した物語を読む－ 高橋 茉由(秋田大学)
- 1-3-5 物語典型（物語の法則）を発見する〈読み〉の可能性－「海のいのち」で習得した物語典型を「山のいのち」で活用する－ 佐藤 佐敏(福島大学)

第4会場 司会：住田勝（大阪教育大学）・丹藤博文（愛知教育大学）

会場：北校舎講義棟N104教室

- 1-4-1 紙とデジタルの違いが「深く読む」読解活動に及ぼす影響－中学二年生を対象に－ 西内 沙恵(北海道教育大学旭川校)
- 1-4-2 「いい子」が社会構造を問いなおす読みの検討 南 咲貴子(関西学院大学大学院・院生)
- 1-4-3 国語科教育におけるGrowth Mindset育成の可能性 太田 悠斗(東京学芸大学教職大学院・修了生)
田巻 上総(埼玉県立春日部工業高等学校)
- 1-4-4 時間・空間を超えた「他者」と出会う場としての文学教育－「我が国の言語文化」を拡張する試みとして－ 佐藤 宗大(日本女子大学)
- 1-4-5 中学校国語科における「黙読+絵本の読み聞かせ」実践の検証Ⅱ－脳科学的アプローチの研究成果を踏まえて－ 森 慶子(徳島大学・専門研究員)

第5会場 司会：吉川芳則（兵庫教育大学）・奥泉香（東京学芸大学）

会場：北校舎講義棟N201教室

- 1-5-1 高校国語科教科書にみる「論理」のあらわれ方－学習指導要領の改訂を受けて－ 篠崎 祐介(東京学芸大学)
奥泉 香(東京学芸大学)
松下 達彦(国立国語研究所総合研究大学院大学)
新井 智大(明治大学大学院・院生)
- 1-5-2 高等学校 評論・論説教材の教材特性と指導意識の関係に関する研究－教材特性の類型化を中心に－ 愼野 拓海(京都教育大学大学院・院生)
- 1-5-3 評論文読解指導における目的意識の醸成 伊藤 まりか(鳥取大学大学院・院生)

1-5-4 「論理」を切り口とした国語科実践にむけた試論 丸田 健太郎(広島大学附属小学校)
山中 勇夫(広島大学附属小学校)

1-5-5 高等学校国語科カリキュラムの構築に資する読解テキストの特質について—ノンフィクションテキストの難易度に着目して— 大滝 一登(文部科学省)

第6会場 司会：小川雅子（元山形大学）・植山俊宏（京都教育大学）
会場：北校舎講義棟N202教室

1-6-1 古典の学習意識に関する研究—古典嫌いの実態把握アンケートの結果分析を中心に— 森口 皓介(京都教育大学大学院・院生)

1-6-2 言葉遊びを通して子供たちはどのように成長するのか—国語の授業における3年間の学びと教師の関わり方— 矢田 直也(信州大学教職大学院・院生)

1-6-3 短歌の創作・鑑賞学習における中学生の使用語彙に関する研究 加儀 修哉(東京学芸大学附属世田谷中学校)

1-6-4 私と古典がつながる日本語書記史の授業化—書き手として言語と向き合うライト活動を通して— 森 美智代(福山市立大学)
磯貝 淳一(新潟大学)

1-6-5 日中における伝統的言語文化教育の比較—故事成語を中心に— 石塚 修(筑波大学)

第7会場 司会：児玉忠（宮城教育大学）・中村和宏（東京学芸大学）
会場：北校舎講義棟N203教室

1-7-1 論理的文章の具体的事例を「書くこと」の学習指導研究—具体的事例記述内容の変化に着目して— 西山 明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校)

1-7-2 論理的文章を「書くこと」に対する意識調査（小学校）—小論文指導を継続的に行った結果の考察— 西山 悦子(東京都台東区立田原小学校)

1-7-3 本を選ぶ〈わたし〉の記述研究—「からだメタ認知」を援用して— 永井 颯人(北海道教育大学教職大学院・院生)

1-7-4 「書くこと」における言語感覚（適否）の本質とは何か—国語科教師と一般人対象の調査結果から可視化された意識差— 矢部 玲子(北海道文教大学)
松原 裕之(福岡工業大学)
桐山 聰(鳥取大学)
坂本 麻裕子(早稲田大学)

1-7-5 高等学校国語における手紙文の学習—形式と内容の往来を目指して— 清田 朗裕(愛媛大学)

第8会場 司会：河野智文（福岡教育大学）・佐藤多佳子（上越教育大学）

会場：北校舎講義棟N204教室

- | | | |
|-------|--|--|
| 1-8-1 | 国語科教育における身体性認知(embodied cognition)の役割——一人一人の読みを深める話し合い学習のために—— | 酒井 千春(広島大学大学院人間社会科学科博士課程後期 東広島市立入野小学校) |
| 1-8-2 | 合意形成をめざす話し合いにおける方法知の創出——小学校中学年の授業実践をもとに—— | 廣口 知世(京都ノートルダム女子大学) |
| 1-8-3 | 話し合いにおいて学習者が選択しない方法知に関する研究 | 遠藤 清将(東京学芸大学大学院・院生) |
| 1-8-4 | コミュニケーションにおける戦略的判断力の発揮とその育成——「聞き書きプロジェクト」に取り組む学習者の姿から—— | 友永 達也(神戸大学附属小学校 神戸大学大学院・院生) |
| 1-8-5 | 高等学校における「話すこと・聞くこと」の研究——「現代国語」と梅下敏之の実践—— | 小川 一美(都立小石川中等教育学校) |

第9会場 司会：中村敦雄（明治学院大学）・足立幸子（新潟大学）

会場：北校舎講義棟N301教室

- | | | |
|-------|---|--------------------|
| 1-9-1 | 読解力に困難のある高校生を教師はどう捉えているのか——高等学校国語科教師へのインタビューをとおして—— | 登城 千加(広島大学大学院・院生) |
| 1-9-2 | いかにして「国語科学習基本語彙」を定めるか——4種の語彙集の比較から—— | 河内 昭浩(群馬大学) |
| 1-9-3 | 子どもの語彙の獲得過程を踏まえた語彙指導の開発——説明的表現を豊かにするマッピングの活用—— | 齋藤 遼(東京学芸大学大学院・院生) |
| 1-9-4 | 語彙学習方略としての「文脈」概念の実践的展開 | 塚田 泰彦(関西外国語大学) |
| 1-9-5 | 国語科教育学の原理的考察（六）——「言語」を中心として—— | 望月 善次(元岩手大学) |

第10会場 司会：府川源一郎（横浜国立大学）・田中宏幸（安田女子大学）

会場：北校舎講義棟N302教室

- | | | |
|--------|---|---------------------|
| 1-10-1 | 新制高等学校発足期における増淵恒吉の国語科学習指導の特質——鳥山榛名との比較を手がかりに—— | 後藤 志緒莉(早稲田大学大学院・院生) |
| 1-10-2 | 戦前期中等学校国語教科書に関する通史的研究 | 小笠原 拓(鳥取大学) |
| 1-10-3 | 戦後初期における阪本一郎の読書指導論 | 稲井 達也(大正大学) |
| 1-10-4 | 昭和初期高等女学校における作文教育の理念と方法——新資料・金子彦二郎『現代女子作文教授資料』（教師用指導書）をめぐって—— | 田中 宏幸(安田女子大学) |

1-10-5 第四期国定国語教科書（サクラ読本）の冒頭教材再考―典拠としての READING－LITERATURE THE PRIMER― 府川 源一郎(横浜国立大学)

第11会場 司会：間瀬茂夫（広島大学）・富安慎吾（島根大学）

会場：北校舎講義棟N303教室

1-11-1 国語科における適切な学習評価についての―考察―児童と行うルーブリックの更新を通して― 藤原 隆博(江戸川学園取手小学校)

1-11-2 主体化する国語科授業の目標設定―言葉を学ぶ習慣的思考を中心に―
香月 正登(梅光学院大学)
白坂 洋一(筑波大学附属小学校)
小泉 芳男(広島市立袋町小学校)
木原 陽子(長門市立仙崎小学校)
古沢 由紀(大阪市立柏里小学校)

1-11-3 小学校教科書における「他への活用を促す振り返り」―平成元年度版～令和2年度版の調査― 出島 佑莉(福島大学大学院・院生)

1-11-4 漢字のアフォードダンスにもとづく学習内容の検討―データベース作成の試行として― 富安 慎吾(島根大学)

1-11-5 読みに困難を抱える学習者を想定した読解力評価問題の開発
間瀬 茂夫(広島大学)
富安 慎吾(島根大学)
古賀 洋一(島根県立大学)
登城 千加(島根県立江津高校)
村井 隆人(大阪教育大学)
明尾 香澄(エリザベト音楽大学)
中井 悠加(島根県立大学)

◎昼食 12:20～12:55（※理事・シンポジストの先生方には昼食をご用意します。）

◎理事会 12:55～13:55 管理校舎（M館） 2階 第一会議室

◎総会 14:00～15:00 図書館2F 教室

◎シンポジウム 15:10～17:40 図書館2F 教室 & E 504教室（サテライト）

GIGAスクール時代における「書く」ことの学習指導をめぐって

基調講演 堀田 龍也（東北大学）

登壇者 高井 太郎（宇都宮大学）

棚橋 尚子（奈良教育大学）

松本 仁志（広島大学）

コーディネーター 野中 潤（都留文科大学）

※メイン会場となる図書館2F教室の収容人数が約300名と小さく、参加者数が収容人数を超える可能性がありますので、東校舎E504教室（収容人数約200）をサテライト会場として設置し、シンポジウムの様子を同時中継でご覧いただけるようにする予定です（第2日の課題研究発表も同様）。

◎懇親会 18：30～20：30 ホテルメトロポリタン長野

〒380-0824 長野県長野市南石堂町1346

公式サイト：<https://nagano.metropolitan.jp/>

【第2日 11月5日（日）】

◎課題研究発表 9:30～12:00 図書館2F 教室 & E504教室（サテライト）

国語教育学研究を見通す③

ーこれからの国語科の教師教育を考えることを通して新しい国語教育研究をデザインするー

コーディネーター 寺井 正憲（千葉大学）

登壇者 積山 昌典（広島県立広島中学校）

森田 香緒里（文教大学）

松崎 正治（同志社女子大学）

◎昼食 12:00～13:40（※課題研究発表の先生方には昼食をご用意します）

◎若手研究交流企画 12:30～13:40 泉会館1号教室

◎自由研究発表 13:40～16:30 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

※各会場にタイムキーパーとして学生スタッフが付きます。

第1会場 司会：羽田潤（兵庫教育大学）

会場：北校舎講義棟N101教室

- 2-1-1 読むことの学習における遠隔交流授業の可能性ー中学校第3学年「『ごん 新村 涼一（長野県松本市立筑摩野中
ぎつね』の読み直し」の授業実践を通してー 学校）
- 2-1-2 中学校国語科における1人1台端末環境下での情報活用能力の育成ー実践 植田 恭子（都留文科大学）
に基づく新しい単元の構想ー 野中 潤（都留文科大学）
- 2-1-3 オンラインによる読みの交流における学習者の学びの姿 岩船 尚貴（上越教育大学附属中学校）
- 2-1-4 中等国語科教員養成課程におけるICT活用指導力育成に関する研究ー学生 中村 純子（東京学芸大学大学院）
への意識調査アンケートをふまえてー
- 2-1-5 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究ー“Doing Ads” 羽田 潤（兵庫教育大学）
（EMC,2008）における「Levi's広告」を活用した学習活動を中心に その2

第2会場 司会：佐藤多佳子（上越教育大学）

会場：北校舎講義棟N102教室

- 2-2-1 「レイヤー」という枠組みを利用した『白いぼうし』の実践 松川 小百合（広島大学大学院・院生）
- 2-2-2 小学校高学年の抽象的な思考を引き出す文学教育実践ー「数値化」と 河上 裕太（聖徳学園小学校）
「絵画化」を用いてー
- 2-2-3 創造性と批評性を一体的に育む国語科の授業ー創作活動から始まる「読 権田 昭芳（信州大学教職大学院・院
むこと」（物語）の学習の意味ー 生）
- 2-2-4 教室で読むことでことばへの感度を耕すーワークショップ型の読むこと 岡田 博元（お茶の水女子大学附属小
の実践からー 学校）
- 2-2-5 ファンタジーの特質に関する児童文学的知見ーファンタジー・メルヘ 大澤 千恵子（東京学芸大学）
ン・リアリズムー

第3会場 司会：府川源一郎（横浜国立大学）

会場：北校舎講義棟N103教室

- 2-3-1 国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み(3)－井口 あずさ(甲南女子大学)
高等学校「文学国語」に対応させて－
- 2-3-2 高校生における文学批評の学習観に関する研究－読者反応批評を取り入 林 一晟(広島大学大学院・院生
れた実践の場合－ 福井県立鯖江高等学校)
- 2-3-3 森鷗外「最後の一句」は教室でどう読まれてきたのか 秋吉 和紀(関西大学第一高等学校・
第一中学校)
- 2-3-4 ショート・ショートの教材化に関する基礎的研究 常塚 優里(京都教育大学)
- 2-3-5 「縁意識」から考える文学教材「おにたのぼうし」の可能性－痛みを抱 雷 民激(広島大学大学院・院生)
える「おにた」の語りを手がかりに－

第4会場 司会：足立幸子（新潟大学）

会場：北校舎講義棟N104教室

- 2-4-1 中学校国語科・論理的文章を「読むこと」の授業研究 長谷川 祥子(青山学院大学)
- 2-4-2 評論から小説教材のジェンダー批評へ－谷村志穂「雪ウサギ」を用いた 木村 季美子(奈良県立添上高等学校)
実践－
- 2-4-3 「探究マップ」でとらえる論理構造－「読む」から「書く」へつなげる 小泉 尚子(中央大学杉並高等学校)
小学校から高等学校までの論理的文章教材分析－
- 2-4-4 読者想定法によるニュースサイトの記事を読むことの指導 足立 幸子(新潟大学)
- 2-4-5 教科の学びを社会につなぐ国語科CRメソッドの開発（3）－新たなアプ 澤口 哲弥(神奈川大学)
ローチを生む「国語科CR授業構想マップ」－

第5会場 司会：藤森裕治（文教大学）

会場：北校舎講義棟N201教室

- 2-5-1 『源氏物語』浮舟巻の教材価値－心内語の語りの批評性を手がかりとし 諏訪園 純(愛知教育大学大学院・院
て－ 生)
- 2-5-2 高校古典授業の再構築(1)－深い学びを促す「問い」の検討－ 松本 圭祐(京都府立福知山高等学校)
- 2-5-3 高等学校国語科における「古典特有の表現」に関する学習 谷川 翔吾(國學院大學大学院・院生)
- 2-5-4 源氏物語絵巻の詞書と絵画を活かした古典指導の研究－「蓬生」の場面 山田 丈美(中部学院大学)
を中心にして－
- 2-5-5 「見る」を含む学習の系統性（12）－源氏物語「幻一父と子」－ 坂東 智子(山口大学教育学部)

第6会場 司会：植山俊宏（京都教育大学）

会場：北校舎講義棟N202教室

- 2-6-1 大学1年生の推敲の意識—高校生意見文の文末形式を対象として— 吉田 史玖(東京学芸大学大学院・院
生)
永田 里美(明星大学)
安部 朋世(千葉大学)
橋本 修(筑波大学)
- 2-6-2 教師自身の書くこと観から「書けなさ」を考える—書くこと（作文）の 永井 ほんり(広島大学大学院・院
学習指導課程再考 その二—
- 2-6-3 生徒自身が構想する楽しく書いて「未来をひらく」意見文の授業—最先 梁 梨花(横浜市立中学校 慶應義塾
端技術のデメリットも考え、既成概念を打破し、新たな価値を創造す 大学大学院・院
る—
- 2-6-4 「描写」表現に着目した小学校の「書くこと」の指導に関する研究 曾根 朋之(東京学芸大学附属竹早小
学校)
- 2-6-5 小学校入門期における物語る力を育成する学習の研究—質的分析による 小川 高広(上越教育大学附属小学校)
物語る力を内面化するプロセスの解明—

第7会場 司会：寺井正憲（千葉大学）

会場：北校舎講義棟N203教室

- 2-7-1 聞き取りにおける手書きメモに関する考察（3）—認知処理スタイルに 鈴木 慶子(長崎大学)
着目して— 宮本 友弘(東北大学)
- 2-7-2 相手の考えや意図を推論する力に培う話し合い学習指導のあり方について—ノ瀬 里紗(兵庫教育大学連合大学
院・院生)
- 2-7-3 小学校国語科における哲学対話の実践研究—対話と「書くこと」をつな 松島 恒熙(信州大学教育学部)
げる実践を通して— 関 康平(大日向小学校・中学校)
- 2-7-4 国語科教育における「対話」概念の考察—「話すこと・聞くこと」を中 伊井 健(関西学院大学大学院・院
心に— 生)

第8会場 司会：間瀬茂夫（広島大学）

会場：北校舎講義棟N204教室

- 2-8-1 学齢児童のコノテーション理解の差異に関する研究—学齢児童へのテスト 矢野 耕平(法政大学大学院・院
ト・アンケート調査を通じて— 生
株式会社スタジオキャンパス)
- 2-8-2 学生の自律学習に向けた教育実践—テキストマイニングを活用した、学 國弘 保明(川崎医療福祉大学)
生自身による語彙使用傾向の把握— 橋本 美香(川崎医療福祉大学)
北澤 正志(川崎医療福祉大学)
黒江 理恵(川崎医療福祉大学)

2-8-3 国語教育は「外国人児童生徒」をどう捉えてきたか一言語教育との連携 金 志唯(広島大学大学院・院生)
に向けた基礎的考察一

2-8-4 ローマ字の学習内容に関する検討 長岡 由記(滋賀大学)

第9会場 司会：佐野比呂己（北海道教育大学）

会場：北校舎講義棟N301教室

2-9-1 向山洋一「分析批評」の再検討一田近洵一「読書行為論」との比較・検 海老原 拓実(成城学園中学校・高等
討を通して一 学校)

2-9-2 「浦島太郎」の国語科教科用図書における採録の変遷と役割一採録形態 宮沢 さや加(大田区立相生小学校)
と挿絵・表記に焦点を当てて一 奥泉 香(東京学芸大学)

2-9-3 垣内松三の再検討一読者の役割を中心に一 武田 裕司(福岡教育大学)

2-9-4 柳田国男監修高等学校国語科教科書における単元「随筆・随想」 佐野 比呂己(北海道教育大学)

2-9-5 戦後漢文教育実践史の展開一戦後初期漢文単元学習の構想と試行一 渡辺 春美(高知大学（名誉教授）)

第10会場 司会：坂口京子（静岡大学）

会場：北校舎講義棟N302教室

2-10-1 近世琉球のことばの教育考 田場 裕規(沖縄国際大学)

2-10-2 「貧困」の観点からみた生活綴り方教育の意義 森川 蓉子(関西学院大学大学院・院
生)

2-10-3 昭和20年代小学校国語教科書における文法教材の検討 松崎 史周(国土館大学)

2-10-4 戦後国語科における価値目標論の展開とその位置づけ 皆尾 賛(広島大学大学院・院生)

2-10-5 日米開戦前における単元「JAPAN」(1940)の開発の実相一サンタ・バー 小久保 美子(新潟大学（退職）)
バラ市教育局（カリフォルニア州）の取組に着目して一

◎ラウンドテーブル 13:40～16:30（終了時間は最長時間です）

R-1会場（北校舎講義棟N303教室）

小学校国語教科書に見る語彙の扱いと課題一音声指導からのアプローチに着目して一

コーディネーター 宮本 淳子(東京学芸大学)

登壇者 土屋 晴裕(東京学芸大学附属大泉小学校)

堀口 史哲(立教女学院小学校)

中村 和弘(東京学芸大学)

白勢 彩子(東京学芸大学)

R-2会場（東校舎E101教室）

読書行為の多様性に対応する発達モデルに基づいた包括的学習支援アプローチの提案

—文学の読みにおける仮説導出のためのパイロット調査をふまえて—

コーディネーター	守田 庸一(三重大学)
登壇者	住田 勝(大阪教育大学)
	山元 隆春(広島大学)
	山元 悦子(福岡教育大学)
	富安 慎吾(島根大学)

R-3会場（東校舎E201教室）

〈第三項〉論による教材研究／授業実践

—あまんきみこ「白いぼうし」、魯迅「故郷」、中島敦「名人伝」—

コーディネーター	黒瀬 貴広(甲州市立松里小学校都留文科大学山梨県立塩山高等学校)
----------	----------------------------------

R-4会場（東校舎E401教室）

これからの文学の学びを考える—「言語文化」からの発展性や教育のグローバル化に着目して—

コーディネーター	稲井 達也(大正大学)
登壇者	高山 実佐(國學院大学)
	畑 綾乃(筑波大学附属高等学校)
	高松 美紀(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

R-5会場（東校舎E504教室）

国語科における文集の可能性—昭和20年代~昭和40年代に着目して—

コーディネーター	有働 玲子(聖徳大学)
登壇者	平林 久美子(東京都教職員研修センター)
	白井 理(元神奈川県川崎市立中学校)
	小川 雅子(山形大学)

◎公開講座（10月21日（土）15:00~18:00 オンライン）

行為としての文学をどのように学ぶか①

—小学校国語科における物語（ショートショート）創作の学習指導について—

司会・進行	鈴木 愛理（弘前大学）
話題提供者	田丸 雅智（ショートショート作家）
	三藤 恭弘（福山平成大学）
	澤田 英輔（軽井沢風越学園）

※学会参加とは別に参加申込が必要です。

【参加にあたっての留意点（重要）】

[当日資料について]

今大会の当日資料は、原則的に紙媒体での配布となりますが、発表者の方には任意でGoogleドライブのフォルダに発表ファイルをアップしていただきます（リンクは以下の通り）。

<https://drive.google.com/drive/folders/1AQNDwmvqRnOJybVFDaebmzw4IYAGLSVf?usp=sharing>

[参加者の方]

- ・発表資料は原則的に紙媒体で配布されますが、一部の資料は上のリンクからご覧いただけますので、大会への参加には、PCもしくはタブレット端末を持参されることをおすすめします。
- ・学内のネットワークをご利用いただくことはできませんので、PC等で資料をご覧になる方は、事前にダウンロードしていただくか、モバイルWi-Fiなどをご持参ください。
- ・各机にコンセントが設置されている教室はほとんどありませんので、PC等は事前に充電をしてからご参加ください。

[発表者の方]

- ・当日、紙媒体の配付資料は**100部**をご用意ください（**必須**）。
- ・上掲のGoogleドライブへの資料のアップは任意としますが、近年はPCやタブレット端末での資料閲覧を希望される方も増えていきますので、できれば事前に資料をアップしていただけますと幸いです。
- ・発表資料は、できれば発表の前日までにアップしてください（事前にダウンロードや印刷をされる方もいらっしゃる場合があります）。
- ・ドライブのフォルダは「自由研究発表」「シンポジウム」「課題研究発表」「ラウンドテーブル」を作成してあります。発表者・登壇者の方は適宜ご利用ください。他にも必要なフォルダがありましたら作成いたしますので、下記の事務局（八木）宛にEメールにてご相談ください。
- ・「自由研究発表」のフォルダについては、中に入ってくださいと、日別、会場別にさらにフォルダを分けてあります。
- ・アップしたファイルの頭に「1-2-3 発表資料」など、プログラムに記載されている発表順を記載してください（半角で）。
- ・発表資料をアップされた方はファイルの「共有」の設定をご確認いただき、「リンクを知っている全員」が「閲覧者」としてアクセスできるようにしてください。
- ・紙媒体の資料は発表当日、発表会場（教室）までご持参ください。
- ・大会事務局では、印刷などの対応は一切いたしません。また、2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。

[要旨集について]

事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方については、大会前日までにご登録いただいた住所に直接郵送される予定になっております。

また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて、大会申込者全員にPDF版をダウンロードしていただけるようにする予定です。ダウンロードの方法につきましては、あらためてメールにてご連絡いたします。

6. お問い合わせ先

信州大会事務局長・八木雄一郎（信州大学）

E-Mail：yagi_yu@shinshu-u.ac.jp

7. 会場案内図

【交通手段について】

- ①JR長野駅善光寺口1番のりばでアルピコバス「善光寺大門行（びんずる号）」「善光寺經由宇木行」「善光寺・西条經由若槻東条行」「善光寺・若槻団地經由若槻東条行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「花の小路」下車。（徒歩7分）
- ②JR長野駅善光寺口4番のりばで中心市街地循環バス『ぐるりん号』に乗車（15分）、バス停「信大教育学部前」下車。（徒歩2分）
- ③JR長野駅善光寺口7番のりばで、アルピコバス「県道經由戸隠中社行」「鬼無里行」「川後經由滝屋行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「信大教育学部前」下車。（徒歩2分）



大学構内



※正門の東側（校舎②、③の南側）に駐車場があります。

※正門を出て東へ5分ほど歩くと善光寺があり、飲食店などが多くあるエリアとなります。

※正門を出て西へ5分ほど歩くとコンビニエンスストア（ローソン）があります。

②：中校舎（M館）（管理校舎）・・・受付、理事会

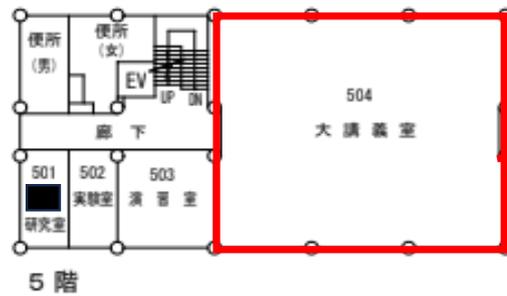
③：東校舎（E館）・・・シンポジウム&課題研究発表（サテライト会場）、ラウンドテーブル

④：北校舎（N館）講義棟・・・自由研究発表、ラウンドテーブル

⑥：教育学部図書館2F教室・・・総会、シンポジウム&課題研究発表（メイン会場）

⑦：泉会館・・・若手研究交流企画（1号教室（2階奥））

③：東校舎部屋割り



E 5 0 4
 シンポジウム&課題研究発表
 (サテライト会場)
 ラウンドテーブル
 R-5

5階



E 4 0 1
 ラウンドテーブル
 R-4

4階



3階



E 2 0 1
 ラウンドテーブル
 R-3

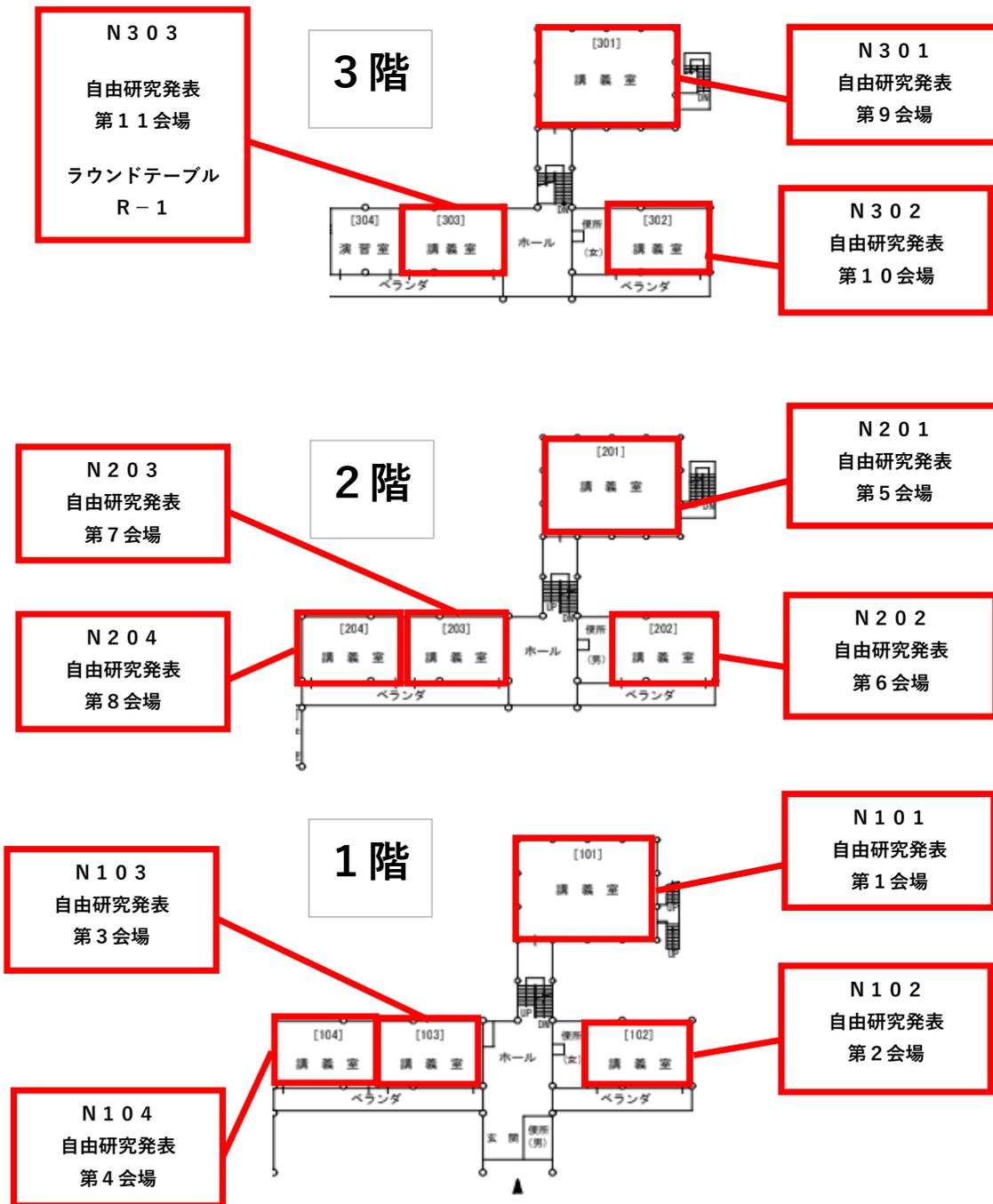
2階



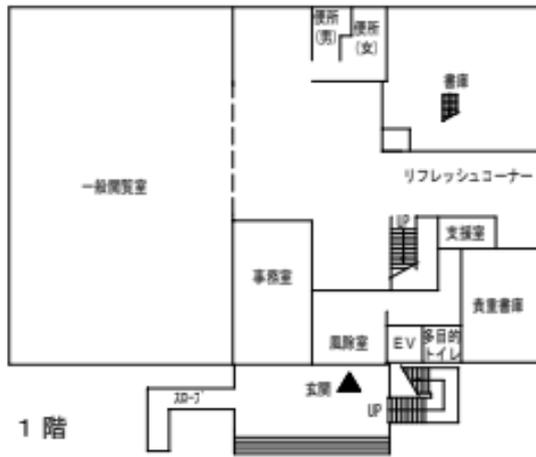
1階

E 1 0 1
 ラウンドテーブル
 R-2

④：北校舎講義棟部屋割り

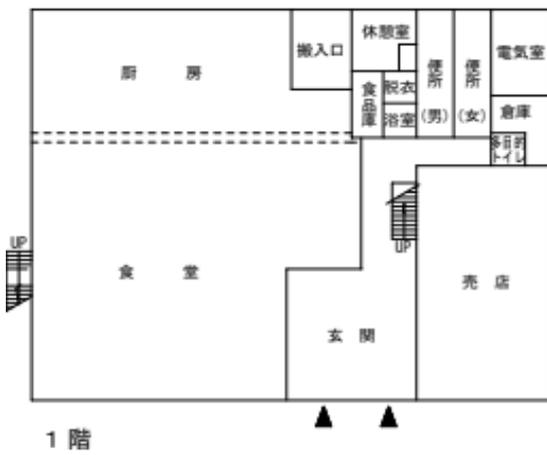


⑥教育学部図書館部屋割り



図書館 2F 教室
 総会
 シンポジウム
 課題研究発表
 (メイン会場)

⑦泉会館部屋割り



泉会館 1号教室
 若手研究交流企画

